

踏み跡 <My Mountains>

会津	田代山・帝釈山	No.195
----	---------	--------

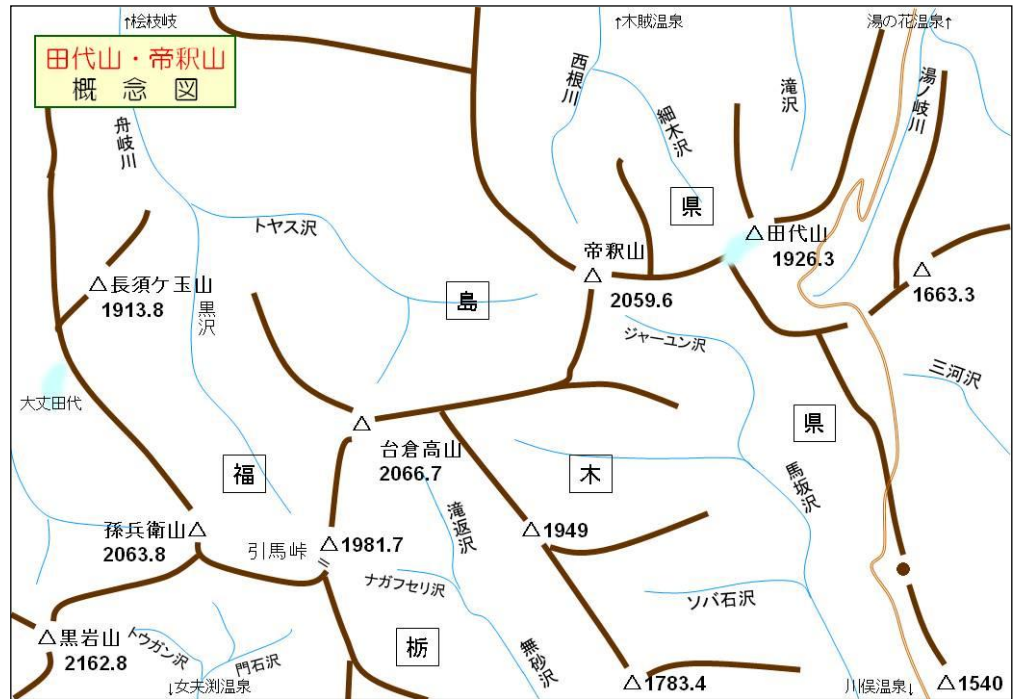
四年間の九州支店勤務が終わり、また東京へ戻ってきた。

登山の切り口で見れば、「まだやり残しがあった、もう少し居たかった・・・」とも言えるが・・・。
 転勤前の昭和 53 年 9 月、平ヶ岳の帰りに登ろうとしたが雨天で撤退した「田代山」がどうしても気になって仕方がない。まずは本土復帰後の第一戦目は大好きな会津の山から、ということになった。

昭和 58 年 10 月 22 日
 天気は晴れ、初日は山懐まで入っておいて二日目にアタックして帰宅というプログラムなので、出発は遅くても良い。15 時 15 分に自宅を出発。16 号線を北上して岩槻インターから東北自動車道、佐野 SA でガソリンを補充して今市経由で鬼怒川温泉へ。

鬼怒川温泉の食堂で夕食（ミックスフライ定食）を食べて山王峠越え、そして羽塩から舘岩に入り田代山登山口に 21 時 30 分に到着。（ここまで 293.5Km）
 広い駐車場に車が 5~6 台とテントが数張り。星空ではあるが月が霞んだような照り方で、雨が降りそうな感じがするのでツェルト設営は止めて車の中で寝ることに変更。
 途中で買ってきたワンカップ大関を飲みながら荷物の整理と読書のあと 22 時 30 分に就寝。

昭和 58 年 10 月 23 日
 予感的中、夜中に目が覚めたら雨が降っていた。5 時半には小雨、6 時半には霧雨、6 時 55 分に起床。
 朝食はラーメンと紅茶。気温は 6 度ぐらいだろうか、寒く感じる。
 防雨・防水滴対応としてオーバーズボンとスパッツを着用して 7 時 35 分出発。
 落ち葉を踏みしめてゆっくりと登って行くうちに霧雨は雲に



変わってきた。

小田代 9 時、ここから湿原が始まる。これが田代山だ、と叫びたくなるような地塘と紅葉と霧氷。

「田代山」という山頂を示す標識に 9 時 30 分に到着。1926.3m の山頂の三角点へは木道から外れていくことができない。（上写真）
 突如霧が晴れて青空が現れた。霧氷が輝いて美しい。日光連山も見えてうれしがり始めたら、15 分ほどで消えてしまった。

（左写真：一瞬の晴天であわてて撮影）

弘法堂 9 時 30 分。

帝釈山（2059.6m）10 時 30 分。3 パーティ 10 人がいた。



踏 み 跡 <My Mountains>



昼食はブドウパン・コンビーフ・紅茶。食事をしながら他のパーティと交流。福島弁の女子高校生と先生のグループがマッチを欲しいと言うので手持ちのものをあげたらお礼に柿をくれた。(左写真：帝釈山頂上)

この先生が言うには、「60歳の誕生日以降、還暦登山と称して何度も山を登っている、先週は会津駒」。

時々晴れて日光連山が見えるが、いつも見ているのとは逆の並び。そうだ、ここは日光の裏側なんだ。

男体山はちょっと小さいが根名草山から白根山まで、わずかな霧の切れ間に全部が見えた。

11時25分帝釈山を出発。弘法堂12時10分、途中でまた曇りに襲われたが、13時25分登山口に帰着。

二度目の昼食はラーメンと帝釈山でもらった柿、デザートに紅茶。

空腹を十分に満たして14時に出発。帰路は栃木県側へ下りることにして、青柳平・川俣湖・川治温泉・鬼怒川温泉へ。日光・今市ルートは混雑しているとのことなので、矢板に出て東北自動車道に入った。(右写真：川俣への林道から)

それでも高速道路は渋滞していて、家に着いたのは20時半だった。

ついに念願の田代山・帝釈山がクリアできて、達成感半分とほっとした気分半分の水割りを楽しんだ。

関東と東北の境界、群馬・栃木と福島・新潟との県境の稜線には魅力的な山が数多く並んでいる。中には登山路がない山もあるようだ。機会があれば、少しでも多くの山を体験したい稜線である。

地図を見ながら、今日の旅を振り返りつつ次の旅のアイデアを練る、何とも言えぬ楽しいひとときである。

以上

